



地区広報

おやまだ

第 21 号

平成13年 3月20日



いも煮会

写真は、いも煮会に招かれ、児童たちとナベを囲むお年よりたち(小山田小学校で)

主な内容

- P 特集 新世紀
20歳になって思うこと
- 2-3 地区文化祭
- 4-5 おやまだあれこれ
- 6 人権コンサート
- 7 文芸・クイズコーナー
- 8

六年 伊藤 幸

おじいさん、おばあさんの
ゆたんぼ
おじいさん
おばあさんと
いっぱい、いっぱい
話した。
初めてなのに
友達みたい。
心の中
ゆたんぼみたい
ほかほかしたよ。

＝祝成人＝



はたち 20歳になって思うこと

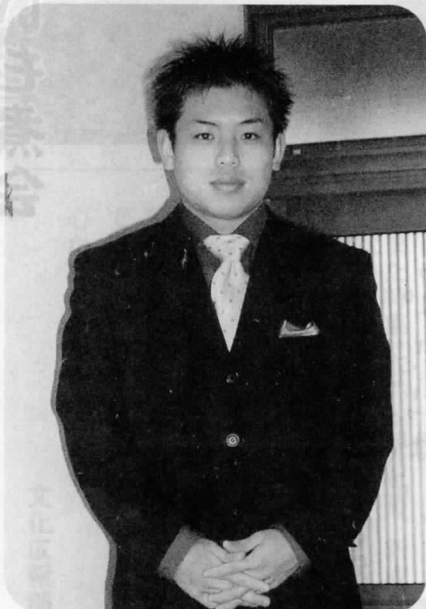
新世紀最初の成人式を迎えられた皆さんに抱負を語っていただきました

信頼される人

小山町 小住 亮太

正直なところ、もう二十歳になってしまつたという感じですが、二十歳の抱負を自分なりに考えてみました。

今思うと、高校を卒業し就職して今に至るまで、ずっと目標というものを掲げることはしてきませんでした。でも二十歳という節目にあ



たつて何か大きな目標をみつきたいです。例えば、社会の役に立つということ、仕事、恋愛など、目標を立てられる事はいろいろありますが、とにかく、今よりもっと自分が大きくなれるような目標をみつけたがんばりたいです。敢えて今目標を掲げるなら何事にも、じけ



可能性を胸に

鹿間町

磯部可奈子

大学に入学して早くも二年程が経ち、あらゆる面でも充実した日々を送っています。大学は高校までとは大きく異なり、関心のある分野を幅広く学ぶことができ、まさに自分で主体で勉強するところだと実感しています。

また、アルバイトを経験して、ほんのわずかですが社会に触れることができ、先輩の社会の方と出会っ

て良く刺激され、人間的にも成長することができました。社会の動きに興味を持つようになり、視野が大きく広がりました。

三年次からはゼミに所属し主に金融について学んでいくのですが、ディスカッション能力を養って、自分のキャリアクターに磨きをかけたいと思っています。無限に広がる可能性に胸をふくらませています。これからの私がどうなっていくのか、私自身がいちばん楽しみます。

視野広げたい

西山町
仲 亜希子

私は今、語学学校で英語を勉強しています。私の学校には他の言語や日本語コースもあり、世界中からたくさんの人達が学びに来ています。私を含め、ほとんどの生徒は寮に住んでいるので、文化や生活の違いを感じました。

同年代の人も大勢いて、世界中の二十歳を見ることができまます。私の目から見ると、彼らは、個人差もありますが、自分の意見や今しなければいけないこと、家族の大切さなどをしっかり持っています。私は彼らを見て、自分は二十歳（成人）になっただけ、まだま

だ名ばかりだと思いたくはない。

また、昨年の十月にはインド、シンガポールへ海外研修に行き、特にインドではその生活の違いにたいへん衝撃を受けました。貧富の差が激しく、道端では多くの小さい子供たちが物乞いをしているのです。日本の子供たちは物が溢れる中、何不自由なく育てられています。インドの子供たちは着る服もなく、その日食べる物もままなりません。しかし彼らは、日本の子供たちにはない「生きていく」顔をしていました。

私は今年で学校を卒業し社会へと出ますが、これからも、もつともつとたくさんの世界をこの目で見、視野を広げていきたいと思えます。そして何か社会の力となる人間になりたいと思えます。



甘えから自立

鹿間町
伊藤 亜樹

新世紀に成人式を迎えられることに、心から幸せを感じます。自分にとってのこの節目を前向きに受けとめ、目標に向かって努力していきたいと思えます。

今までは親にも職場の方々にも、甘えていた部分も多かったように思いますが、これからは少しずつ自立し、職場では先輩の指導にも力を注げる自分になつていかななくてはと思っています。何か一つ信念を持つて、一歩ずつ積み上げて一つのものを完成させていくことが、自分にとつての今後の課題のような気がします。

それから、サークルなどを通じてたくさんの人と知り合い、助け合い、今以上に友だちの輪を広げていくことが私の希望です。

最後に、ここまで私を育ててくださった両親をはじめ、まわりの方々の愛情に心より感謝いたします。



学生時代に、友達からよく「夢」について聞かされたことがあります。それを意識しだしたのは、たぶん中学校を卒業してからだと思えます。

高校に入ってから、ひたすら勉強の毎日でした。初めは「自分をバカにしたヤツらを見返してやろう」という気持ちでいっぱいでしたが、少し成績が上がると女の子から勉強をきかれたりして、何となく得をした気分になつてからは、いつのまにか教える事が好きになつていました。その時から、少しずつ「夢」が見え始めてきました。

『夢』

贈る言葉

西陵中教諭 大矢知 正裕

友人は「夢を持つていけるヤツは土壇場に強い」と口癖のように言います。僕は何のために勉強をしてきたのだろうか。「見返してやりたい」という気持ちもあつたし、「女の子にもてたい」とも。でも何と云つても「教師という「夢」を達成したい」という思いにいきつきます。勉強が好きになれなくても、辛いことがあつても、夢を持つていたほうが努力のしがいがあるような気がします。

社会人になつて十三年になります。新たな「夢」が僕にやる気とパワーを与えてくれます。いい人生を送ること：それは「夢」を持ち続けることだと思えます。

先ごろ行われた各地の成人式で

一部の若者たちの乱行が取り沙汰されました。しかし、多くの若者たちは儀式を儀式として

厳粛に受け止め、人生の一つの節目に臨んだはずですが、めまぐるしく変化する時代のうねりの中にあつても

地に足をつけ未来を見据えて歩いてほしい。

新成人の未来に幸多かれ！

あいと心のかよう文化祭”

地区文化祭



▲「いらっしゃいませー！」



▲婦人会の皆さん、来年もおいしい味ごはんをお願いします！

さわやかな秋晴れの下、小山田地区社協主催の文化祭が催されました。
従来のものに色々な趣向を加えた、地域みんなで取り組んだ「新文化祭」でした。
これまでの静かな文化祭から活動的な文化祭へ……
地域の活性化につながる素晴らしいイベントでした。

5(日)



人でにぎわい大盛況でした。



▲婦人会のフリーマーケット「もっと安ーしてヨ！」



▲作品展示の数々。



▲「健康の事なら私達にお任せ！」



▲立派な枝ぶりの盆栽。お見事！



▲「おいしかった。ごちそうさま。ヤダー！」



に打てるかな？」



▲「それー！」老人会のクオリティ（輪投げ）でした。



▲コナンのクイズコーナーも大好評。「わかるかな？」

みんなで創ろう！“ふれ

小山田地区

11/4(土)・



▲ゴールイン！お疲れさまでした！



▶5日に行われた育成会の駅伝大会と、防火ポスターコンクールの表彰式。



▲会場となった地区市民センターは、たくさん



▲▼青少年育成部の焼きそばも飛ぶように売れてました。



▲とてもきれいな菊。白黒なのが残念。



▲今回、初開催のフリーマーケット。「何かいいのいなかな？」



変身した文化祭

文化広報部長 萩 伸元

“ふれあいと心のかような文化祭”をテーマに、これまでの展示中心の観る文化祭から食べ物コーナーを始めとする各種協賛行事も取り入れた、参加する文化祭へと生まれ変わった今回の文化祭は、連日好天に恵まれ、地域住民が多数集い、大成功に終わることができました。

これもひとえに、参加していただいた多くの皆様のお陰と、心より厚くお礼申し上げます。

今後はさらにステップアップし、皆様に楽しんでいただける“地区のまつり”として発展させていきたいと思っておりますので、尚一層のご支援、ご協力を賜われますようお願い申し上げます。お礼の言葉に代えさせていただきます。



▲保健体育部のグラウンドゴルフ。「上

おやまだあれこれ



消火器を使って訓練をする六名町の人たち

六名町 光輪寺で消防訓練

貴重な文化財を火災から守ろうと、文化財防火デーを前にした一月二十四日、六名町の光輪寺で消防訓練があり、中村宜興住職など寺院関係者、四日市市南消防署員、小山田分団員、地元自治会など、あわせて二十七名が参加し万一場合に備えました。

光輪寺には、市指定文化財「釈迦如来座像」が所蔵されています。訓練は庫裏からの出火を想定し、関係者が通報するとともに文化財に見立てたダンボールを運び出し、駆けつけた住民が消火器及び消火栓より初期消火を行い、最後に消防署員が本堂前で一斉放水し終了しました。また、小山田分団員の非常招集訓練も実施され、サイレンが吹鳴されるなど、本番さながらの訓練となりました。

こんにちは グループホームです

青山里会



完成したグループホーム

青山里会では、平成十二年十一月に小山田グループホームがオープンしました。正式な事業名は「痴呆対応型老人共同生活援助事業」といいます。

グループホームは痴呆性のお年寄りがご自身の出来る範囲で、炊事、洗濯、掃除といった日常の生活が継続できる共同住宅です。

例えば洗濯では洗濯物を洗う・干す・たたむことや、炊事では食事の準備・味付け・盛り付けや片づけまで、できる方に行ってもらっています。また安心して生活ができる環境としては、お風呂は家庭サイズの物ですが、手すりがついていたり、トイレでは流すという行為を忘れる人のために立ち上げれば水が流れるセンサーがついていたり、緊急時に対応できるようにナースコールを各部屋に取り付けたり、段差をなくしたバリアフリーなどになっています。

入所されている方が、地域の方と、どのように交流をしていけるかはわかりませんが、グループホーム共々よろしくお願いたします。

弘法の井戸

西山町 伊藤 美敏

地元には伝わる言い伝えによると、一人の旅僧が「なにか困ることはないか？」と尋ねたところ「水がないこと」と答えると、教えてくれたのが、この西山の弘法の井戸です。

昭和のはじめまでは井戸のない家庭が多く、平野新田の用水を生活用水としていた程で、日照りの時など、特に冬はほとんど毎年水が干涸び、夕方ともなると水汲みで順番待ちとなる状態でした。

今となつては、だれ一人として利用する者もなく、落ち葉が積もつて、水が溜まる程度となっています。

あり得ないことと思いますが、もし地震で水道管が壊れたり、道路がふさがつて給水車が通れなくなつたりするような被害を受けた場合、『命の水』となるかも知れません。



生活用水として利用されていた弘法の井戸



「はい、皆さん
今から絵を描きましょう！」

♪ 久しぶりに絵を描いたり歌を歌ったりして、とても楽しい時間を持ってました。そんな中で子供や家族と感性をみながら生きていきたいと思えます。

♪ りょうがん先生のお話がすごく楽しかったです。「人権」の名目だったので、もつとかしこまった話なのかなと思っただけ、来てラッキーって感じでした。それと、バイオリンを生で聴けたのは、うれしかったです。

♪ 忘れかけていた人の心の温かさを思い出させてくれるステキなコンサートでした。

♪ 五感を働かせること、大人が楽しむことの大切さ、心地よさを実感できて良かったです。少し優しい気持ちになりました。

りょうがん先生

&
中村葉子先生

H13. 1. 19

ぴあホール

人権コンサート



—音楽と語りによるコンサート—

小さいお子さんからお年よりまで世代を超えて
とても温かい時間が流れました

—参加していただいた方々の声です—

♪ 楽しい時間でした。子供との会話の大切さを、あらためて感じました。

♪ 心に残るお話とすばらしい感動をありがとうございました。

♪ 子の親として考えさせられる事、私たちが変わらなければ、と思いました。

♪ 心あたたまるお話と歌、ホッとしたひとときでした。

♪ いいお話、心地よい音楽がありがとうございました。大人がなくなってしまった心を思い出させてくれました。



笑いの渦…和やかなひととき

♪ 難しい話ではなく、楽しく聴くことができました。忘れていたこと、原点に（子供との関わりの中で）もどれといわれたように思います。それと、すごく温かいものを感じました。涙がとまりませんでした。ありがとうございました。先生の人柄を感じました。小学校、中学校の生徒も聴けたら良いのと思います。



どんな山の絵描いた？

♪ 良顔先生の楽しいお話と素晴らしい歌声、女の先生のバイオリンのきれいな音色、たいへん素晴らしいです。

♪ 子供も参加できて、とてもすてきでした。いいお話でした。来て良かったです。

♪ 一般的によくある人権の話ではなしに、お仕着せでない話でした。話と歌うことを一緒にすることによって、よりいつそう皆の心に訴えることが出来たのではないかと思つた。とても心に残るコンサートでした。今夜のような企画を、もつともつと地域のいろんな人々にアピールしていただければ、もつといいのになあ、と感じました。

がとう。一緒に歌えてよかったです。

「ぼくが子どもの頃
近所にね…」

♪ 時間を忘れました。本当に参加して良かったと思えました。話あり、笑いあり、歌あり、そして人生と真心があると感じました。機会があれば、ぜひもう一度このような場に参加できる企画をたのみます。

♪ 温かいお話とみんなが歌えるあつたかいコンサートあり

♪ すてきなコンサートで、相手を思いやることもう一度見直そうと思えました。でも同和問題は相手を思いやることだけで差別が消えるものではないと思えます。今後そんなコンサート、講演会を聴きたいです。

文芸コーナー

短歌

同級の旅の宴はたけなはに温和な友も八木節踊る
伊勢の国の一の鳥居を過ぎたりと演歌も唄ひ歴史語らふ
今は亡き友と語りし喫茶店ゴムの木同じ場所に飾らる
冬晴れのあしたに一輪水仙の咲きいてまだ春を遠かり
濃く淡くしだれ桜も満開の花を見上げて歩む奥入瀬

鹿間町 岸本久美子

散りぎわに再び強く香り立つ銀木犀の花羨まし
吊柿紐に連ねて窓に吊る空見る窓を一つ残して
夕空を鳴きてねぐらに帰りゆく鴉の声の寒くきこゆる
雁がねの静かに渡る朝の空V字を組みてはや遠退けり

鹿間町 酒井三春

俳句

深呼吸胸いっぱい秋を吸う
病室に外を眺めつ秋惜しむ
彼岸花時季を忘れず畔に咲く
まつたけの香りほのかに夕餉どき

鹿間町 酒井三春

川柳

百舌鳥鳴いて穫り入れ急ぐ熟し柿
急かすなよまだ十一月だ年賀状
木枯らしと急いで渡る黄信号
坂道を苦にせず急ぐ通学児

鹿間町 酒井三春

地区の人口

(平成13年1月1日現在)

町名	世帯数	人口		合計
		男	女	
山田町 (内老人ホーム)	921 (480)	834 (142)	1,149 (328)	1,983 (470)
鹿間町	288	437	461	898
西山町	210	352	367	719
小山町	154	281	288	569
堂ヶ山町	122	225	242	467
和無田町	107	185	191	376
内山町	60	93	113	206
六名町	47	84	83	167
美里町	41	92	81	173
合計	1,950	2,583	2,975	5,558

おやまだ
クイズ

はじめました!!

下のわくに1~9の数字をそれぞれ1個ずつ入れて、たて・よこ・ななめ、どこを足しても15になるようにして下さい。

2		
	5	

応募方法

- センター備えつけの用紙に記入し、(自分で作った用紙でもOK) 応募箱に入れてください。
- 〆切は4月6日(金)
- 正解者の中から抽選で10名の方に賞品が当たります。
- 当選者の発表はお知らせ「おやまだ」4/18日号で。

今回のクイズは
数字のクイズだよ!
少しむずかしいけど
とくことができかな?



あしがき

今号は、これまでの広報紙より文字を大きくして読み易くするとともに、内容も皆様により親しんでいただけのように、クイズコーナーを設けるなど、工夫してみました。
また特集には、今世紀初、新成人となつた方々に登場してもらい、これからの夢や希望を語っていただきました。
彼ら若者たちの進む道は、決して平坦な道ばかりではないでしょう。でも、どんな苦難にもひるまず歩んでほしい。若者たちの輝く未来に、心からエールを送ります。